

# 「1年1組の強みを発掘&発揮！」

—課題を自分事としてとらえ、他者と協働し、よりよい学級をめざす生徒の育成—

## I はじめに

## II 実践のねらい

## III 実践の方法

- 1 対象
- 2 基本的な考え
- 3 各実践のすすめ方

## IV 実践の内容

- 1 「学級の実態に即したレーダーチャートの活用」
- 2 「コンセンサス（合意形成）ゲーム」
- 3 「合意形成をはかった話し合い活動」

## V おわりに

## 研究の概要報告

### 1 県内の自主的な研究活動のとりくみ状況

第73次教育研究活動に、県内より9本の貴重なリポートが寄せられ、「たくましく生きる子どもを育てよう」の統一テーマのもとに活発な研究討議がなされた。

本次教研では、「子どもの気持ちを大切にし、実態を正しく把握した上で、やる気を引き出し、自己存在感を味わわせるための支援のあり方」「リーダーの育成や集団の質を高めるための支援のあり方」「問題行動の解決や予防のための家庭や地域との連携、コミュニケーション能力の育成とその支援のあり方」という課題に対し、熱心に討論をすすめた。活発な討論になるように、課題ごとに質疑応答を行い、最後に総括討論を行った。

リポートの傾向としては、主体性・協働・自己指導能力などのキーワードをもとに、自他を大切にし、自分の思いや考えを伝え合うことで、自己実現をめざすための実践が多くみられた。また、生徒会活動や学級活動、学校行事で仲間とかかわる活動を通して、集団の質の向上をめざした実践や、校内フリースクールにおける長期欠席生徒の社会的自立を目標とした実践なども報告された。

### 2 本次県教研で論じられた主要な課題

- (1) 子どもの気持ちを大切にし、実態を正しく把握した上で、やる気を引き出し、自己存在感を味わわせるための支援のあり方

他の人のことを考えながら、なりたい自分にむけて努力することや、自分たちが考えた企画を振り返り、再実践をすることで、自信をもって行動することができたという実践が報告された。また、当事者意識を高めるために、生徒会活動を生徒たちが中心となって運営するシステムを取り入れて生徒が主体的に行動できるようになったという実践も報告された。

- (2) リーダーの育成や集団の質を高めるための支援のあり方

自分の意見を伝えることや相手の意見を受け止めることの大切さを知ること、仲間の考えを尊重することができたという実践が報告された。また、学級リーダーチャートを活用し、よりよい学級をめざすために努力したり、級訓を軸としたPDCAサイクルを活用したりすることで、よりよい学級をめざすための意識を高めることができたようになったという実践が報告された。

- (3) 問題行動の解決や予防のための家庭や地域との連携、コミュニケーション能力の育成とその支援のあり方

学習方法を自分で決定することで、自己決定力を育み、自己存在感を高めていく実践や、特別活動などで認め合いや深め合いを意識させ、共感を根底においている実践が報告された。また、長期欠席生徒の社会的自立のため、自己存在感を高めることや、さまざまな環境の変化や人間関係の変化に対応する力を養うための実践もあった。 (杉本一正・中沼暁)

## 報告書のできるまで

第73次教育研究愛知県集会「自治的諸活動と生活指導」分科会は、10月21日愛知県産業労働センターで開かれた。第72次教研までの成果と課題にたち、「たくましく生きる子どもを育てよう」をテーマに、次の柱立てにより討議された。

- 1 子どもの気持ちを大切に、実態を正しく把握した上で、やる気を引き出し、自己存在感を味わわせるための支援のあり方。
- 2 リーダーの育成や集団の質を高めるための支援のあり方。
- 3 問題行動の解決や予防のための家庭や地域との連携、コミュニケーション能力の育成とその支援のあり方。

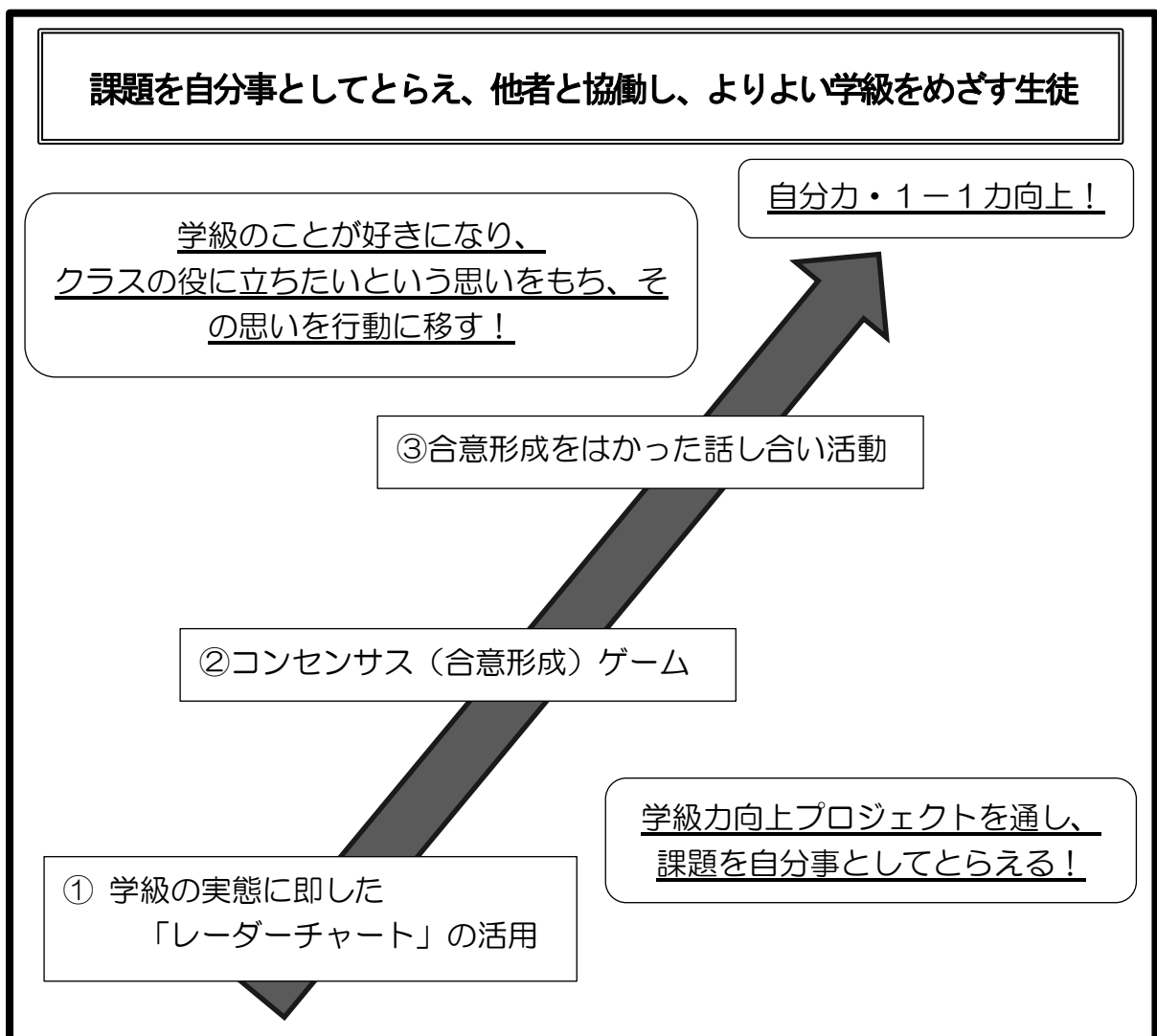
数多くの具体的実践をもとに、成果を確認し、課題を掘り起こしていった。この報告書は、その成果と課題を中心に作成したものである。

助言者	杉本 一正 (愛知県一宮児童相談センター)	中沼 暁 (名古屋・楠中)
教育課程	小檜山 亮 (海 部・甚目寺南中)	大橋 史人 (名古屋・明治小)
研究委員	神谷 淳一 (碧 海・高浜中)	小島 健司 (名古屋・赤星小)
	岡戸 信輔 (知教連・加木屋南小)	小野 覚 (豊 田・童子山小)
	羽根田知樹 (名古屋・平針南小)	浅野 和也 (西 春・清洲中)
	松下 裕哉 (名古屋・千鳥小)	蟹江 陽平 (岡 崎・男川小)
	竹田 裕亮 (海 部・立田南部小)	皆川 博之 (名古屋・名塚中)

## 報告書の要点

本学級の生徒は、4月当初から継続して、チャイム前着席やロッカーの整理整頓を意識するなど、規範意識の高い生徒が多い。しかし、それら呼びかける生徒は一部に限られ、他の生徒は言われたことを行う、受け身な印象を受ける。生徒が「自分たちでよりよい学級を築きたい！」と学級の課題を見つけ、課題解決にむけて話し合い、改善していくことが、自主性を育んだり、集団への所属感や連帯感を深めたりする。それが学級力の向上へとつながると考えた。

わたくしの考える「学級力」とは、生徒たちがよりよい学級をめざし、学級みんなで決めた目標にむかって支え合いながらとりくみ、協働的な関係を築いていこうとする力である。めざす学級像に迫り、学級力を向上させていくために、学級力アンケートを定期的に行い、学級力レーダーチャートを作成する。そのレーダーチャートからよりよい学級をめざし、課題解決のための方策や、次の学級目標を決める話し合いを行っていく。学級の思いをまとめ（合意形成）、活動目標を決めることで、課題を自分事としてとらえ、他者と協働し、よりよい学級をめざす生徒を育成できるのではないかと考えた。そのため、次のような流れで実践にとりくんだ。



生徒たちはレーダーチャートを活用し、課題を自分事としてとらえることができた。また、コンセンサスゲームを通して、楽しみながら合意形成について学び、積極的に意見交流がはかれるようになった。本実践を通して、生徒は学級のことが好きになり、学級の役に立ちたいという思いをもち、その思いを行動に移すことができた。1-1の学級力は大きく向上した。

## I はじめに

本校は、愛知県安城市の北部に位置しており、豊田市と岡崎市に隣接している。学区では梨や麦が作られ、旧東海道沿いの松並木など緑が多く、四季のうつろいを豊かに感じられる。素直で真面目な子が多く、穏やかな土地柄である。また、学校教育への関心は高く、学校行事では多くの保護者が参観に来られる。

## II 実践のねらい

本学級の生徒は、4月当初から継続して、チャイム前着席やロッカーの整理整頓を意識するなど、規範意識の高い生徒が多い。しかし、それらと呼ばかける生徒は一部に限られ、他の生徒は言われたことを行う、受け身な印象を受ける。生徒が「自分たちでよりよい学級を築きたい!」と学級の課題を見つけ、課題解決にむけて話し合い、改善していくことが、自主性を育み、集団への所属感や連帯感を深める。それが学級力の向上へとつながると考えた。

めざす学級像に迫り、学級力を向上させていくために、学級力アンケートを定期的に行い、学級力レーダーチャートを作成する。そのレーダーチャートから、よりよい学級をめざし、課題解決のための方策や次の学級目標を決める話し合いを行っていく。そのために話し合い活動を充実させていきたい。学級の思いをまとめ（合意形成）、活動目標を決めることで、課題を自分事としてとらえ、他者と協働し、よりよい学級をめざす生徒を育成できるのではないかと考え、実践にとりくんだ。

## III 実践の方法

### 1 対象 第1学年1組 35人

### 2 基本的な考え

わたくしは、課題を自分事としてとらえ、他者と協働し、よりよい学級をめざす生徒を育成したい。課題を自分事としてとらえ、学級力を向上させていくためには、学級の現状を知ることが必要不可欠である。そこで本実践では、学級力アンケートを定期的に行い、学級力レーダーチャートを作成する。そのレーダーチャートからよりよい学級をめざし、課題解決のための方策など、話し合いを行っていく。話し合いでは合意形成の手法をとり入れる。互いの意見を理解し合い、最適解・納得解を求めていく。日々の生活はもちろん、話し合いでも他者と協働することを意識できるようにしたい。学級の思いをまとめ、とりくむ目標を決め、その目標を達成するために自ら行動したり、他者と協働したりする経験を重ねていく。その経験を通して、学級のことが好きになり、学級の役に立ちたいという思いを強くし、その思いを自ら積極的に行動に移すことができるようにする。

抽出生徒Aについて述べる。Aは自分の考えを積極的に伝えたり、チャイム前着席の声かけを自ら行ったりするなど、学級のために行動することができる。しかし、自分の考えに固執してしまい、周りの意見を上手に受け入れられないことがある。合意形成をはかった話し合い活動を取り入れ、自分の思考の幅を広げたり、深めたりしてほしい。そして、学級の課題を自分事としてとらえ、級友と協働し、よりよい学級を築いてほしい。学級力向上のリーダーとして活躍してほしいと考える。

### 3 各実践のすすめ方

#### 実践1 学級の実態に即した「レーダーチャート」の活用

【ねらい】 自分たちで考え、改善していけるしくみを構築し、教員の思い中心ではなく、生徒の思いを中心にすえた活動を行うことで、課題を自分事としてとらえ、よりよい学級をめざそうという意識をもつことができるようにする。

- 【すすめ方】
- ① 生徒の思いを中心に学級目標を考える。
  - ② 「学級力アンケート」・「レーダーチャート」を活用する。
  - ③ 既存の学級力アンケートとレーダーチャートに生徒の意見を取り入れ、学級の実態に即したものに改良する。

【留意点】 教員の思いを活動の中心にするのではなく、生徒の思いを中心にすえた活動を行う。また、レーダーチャートは前月と比較することで、今後も継続してのばしていく点、今後の課題点について話し合い、共通認識する。

#### 実践2 コンセンサス（合意形成）ゲーム

【ねらい】 話し合いの中で互いの意見を納得のいく形で一致できるように、コンセンサスゲームを通して楽しみながら合意形成について学ぶ。

- 【すすめ方】
- ① 個人で考える。
  - ② グループで合意形成をはかる。
  - ③ 全体で合意形成をはかる。

【留意点】 解答が用意されているため、グループや全体で正解をめざしていくが、一番の価値はグループや全体で一つの答えを導き出すことであり、その導き出した答えこそが本当の正解であることを共通認識する。

#### 実践3 合意形成をはかった話し合い活動

【ねらい】 グループや全体での話し合い活動を充実させることで、めざす学級目標が明確になり、話し合い活動だけでなく、日々の生活でも他者と協働し、よりよい学級をめざそうという意識を高められるようにする。

- 【すすめ方】
- ① 1か月の重点項目を決める。
  - ② 段階を踏んだ合意形成、納得度を問う。
  - ③ 学年全体でレーダーチャートへととりくむ。

【留意点】 課題について思考を深められるように、個人、グループ、全体と段階を踏んで合意形成をはかる。また、1か月の重点項目を決めたり、他学級のとりくみを紹介したりすることで、よりよい学級をめざし、他者と協働できるようにする。

## IV 実践の内容

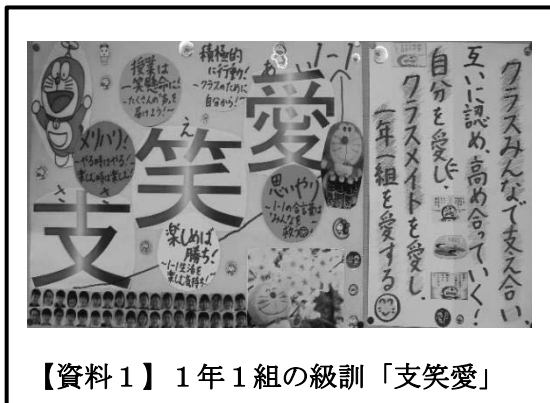
### 1 学級の実態に即した「レーダーチャート」の活用

#### (1) 生徒の思いを中心に学級目標を考える

1年1組での生活がスタートした入学式の日、生徒に「クラス全員が、1年1組で楽しく充実した時間を過ごせるクラス」を築いていきたいと話をした。そのため特に、めりはりをつけて生活すること、全員が1-1生活を楽しもうという思いをもつこと、自ら学級のために行動することを大切にしてほしいと伝えた。しかし、これだけでは教員の思い中心の学級づくりになってしまう。そこで、4月中旬に級訓決めを行った。級訓決めでは、一人ひとりのめざす学級像を、全体でめざす学級像へ結びつけるため、板書をする際にマッピングを用

いて、生徒の思いが級訓に込められるようにした。「やるときはやる、楽しむときは楽しむ、めりはりのあるクラス」、「チャイム前着席、整理整頓が当たり前ができるクラス」、「授業でたくさん発言できるクラス」、「支え合って生活していきたいから『支え合い』はどうか、

「笑顔と愛があふれるという意味も含めて『支笑愛』、話し合いの結果、級訓は「支笑愛」に決まった【資料1】。また、級訓をより意識して生活できるように、マッピングをもとに学級みんなで一年間特に大切にしていきたいこと

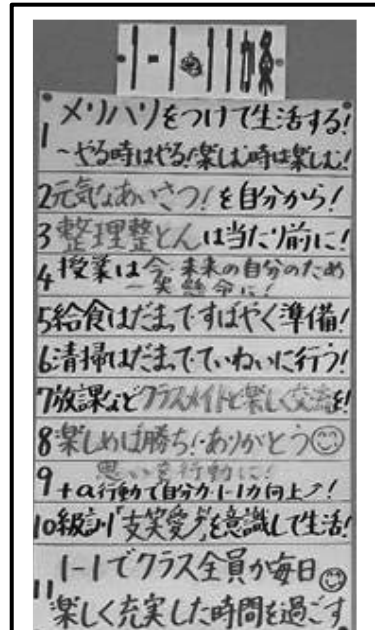


【資料1】 1年1組の級訓「支笑愛」

についても話し合い、『1年1組・11か条』としてまとめ、教室に掲示した【資料2】。Aも「めりはりをつけて、チャイム前着席を意識したい」と発言するなど、自分の考えを積極的に伝えていた。また、学級三役（代議員）にも立候補し、学級の中心となつてがんばってこうという意思が感じられた。

## (2) 「学級力アンケート」「レーダーチャート」を活用する

4月は特に、生徒たちがチャイム前着席と机上やロッカアの整理整頓を意識した。教員やAなどの声かけもあり、チャイム前着席は当たり前になり、ロッカアの整理整頓は学校一と自信をもてるまでになった。しかし、まだまだ教員主導の感が否めなかった。学級力向上のためには、「自分たちでよりよい学級を築きたい!」という思いで、生徒たち自身が学級の課題を見つけ、課題解決にむけて話し合い、改善していくことが大切である。4月下旬、4月の生活を振り返り、5月の学級目標を決める話し合いを行うことにした。その際、「学級力アンケート」を行った。学級力アンケートとは、現在の学級の状況を診断するためのアンケートである。そのアンケートをもとに、「学級力レーダーチャート」を作成した。学級力レーダーチャートとは、学級力アンケートの集計結果を領域別・項目別に可視化したレーダー型のグラフのことである。これらにもとづき、生徒自身が学級の実態について実感をもって受け止め、学級力向上にむけて、主体的なとりくみを行うことができる。また、この2つを用いることにより、学級力の可視化が容易に可能となり、改善点や次の目標が決めやすくなるという利点もある。めざす学級



【資料2】

1年1組・11か条

力アンケート

**1-1の強みを発掘&発揮! ~学級力向上プロジェクト~**

**学級力アンケート**

1-1生活・4月ふり振り返り  
~5月へむけて~

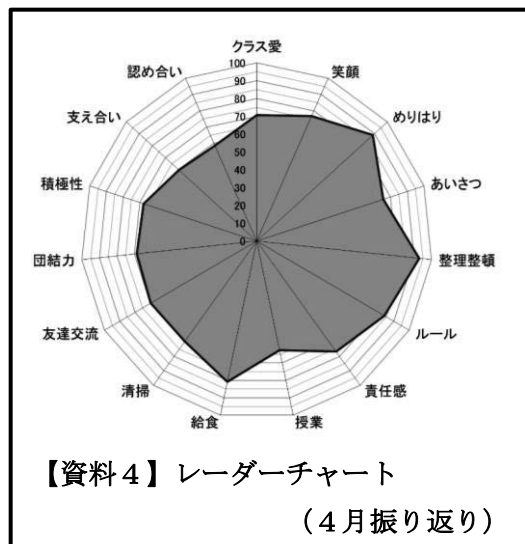
名前 \_\_\_\_\_

◎ このアンケートは、1-1をより良いクラスにするためにみなさんで意見を出し合うものです。それぞれ項目の1~4の数字のあてはまるところに、一つずつ○をつけましょう。  
4: とてもあてはまる 3: 少しあてはまる 2: あまりあてはまらない 1: まったくあてはまらない

①クラス愛	クラスみんなで決めた目標(「支笑愛」)に力を合わせて取り組んでいる学級です。	4-3-2-1
②笑顔	「1-1生活を楽しむ!」気持ちを大切にしている学級です。	4-3-2-1
③メリハリ	「やる時はやる、楽しむ時は楽しむ!」メリハリをつけて生活できる学級です。	4-3-2-1
④あいさつ	朝や授業の始めと終わりなど、元気にあいさつをすることができる学級です。	4-3-2-1
⑤整理整頓	机やロッカーなど、整理整頓が◎で美しい教室環境を維持できている学級です。	4-3-2-1
⑥ルール	クラスや学校で決められたルールをきちんと守る学級です。	4-3-2-1
⑦責任感	係や当番の活動に責任をもって取り組むことのできる学級です。	4-3-2-1
⑧授業	授業(話し合い)で、自分の考えを積極的に発言することのできる学級です。	4-3-2-1
⑨給食	給食の準備はだまらずばく協力して行うことのできる学級です。	4-3-2-1
⑩清掃	清掃はだまらずばく丁寧に・真剣に取り組むことのできる学級です。	4-3-2-1
⑪友達交流	たくさんのクラスメイトと楽しく交流ができていく学級です。	4-3-2-1
⑫団結力	生徒会で決めた学校行事や学級で決めた活動に団結して取り組んでいる学級です。	4-3-2-1
⑬積極性	自分たちからクラスのために積極的に行動できる学級です。	4-3-2-1
⑭支え合い	「みんなを救う」を合言葉に、日々の1-1生活で支え合っている学級です。	4-3-2-1
⑮認め合い	クラスメイトのよいところやがんばりを認めて伝え合っている学級です。	4-3-2-1

【資料3】学級力アンケート

像により迫り、学級力を向上させていくために、アンケートとレーダーチャートは既存のものに生徒の意見を取り入れ、学級の実態に即したものに改良した。【資料3】【資料4】。レーダーチャートをもとにした話し合いの結果、5月は「支え合い」を重点項目とし、学級みんなで支え合いを高めるために、他の係の仕事ですすんで手伝うなど、自分から学級のために行動していくことを共通認識した。学級の実態に即したレーダーチャートの活用は、「よりよい学級を築いていこう」という生徒たちの士気を高めた。ここから、「1-1の強みを発掘&発揮！『学級力向上プロジェクト』」



【資料4】レーダーチャート  
(4月振り返り)

の活動がスタートした。Aは、朝や帰りのS Tで「整理整頓は〇〇さんからも褒められたので、引き続き意識していきましょう」、「自分もだけど、配りものが多いときは配り係の手伝いができるといいと思いました」などと、学級力向上のため、級友に呼びかける姿が多くみられた。しかし、学級全体としてはグループや全体での話し合いが課題だと感じた。一部の生徒のみで話し合いが展開されている印象を受けたからである。

## 2 コンセンサス (合意形成) ゲーム

上述したグループや全体での話し合いという課題を解決するため、グループや全体での話し合いには、「合意形成」の手法をとり入れることにした。合意形成とは、話し合いの中で互いの意見を納得のいく形で一致させること、意思決定において相互の意見の一致をはかる過程のことをいう。合意形成をはかるためには、これまで以上に異なる意見を互いに理解し合った上で、合意点をみつけることが大切である。

【資料5】「合意形成」のポイント

ただ話し合っているだけでは合意形成にはならない。そこで、生徒に合意形成のポイントについて次のように示した【資料5】。また、すぐにレーダーチャートをもとにした話し合いなどで合意形成をはかることは難しいと感じたため、段階をふんでいくことにした。そこで行ったのが「コンセンサス (合意形成) ゲーム」である。コンセンサスゲームとは、与えられた課題について、

【資料6】コンセンサスゲーム「砂漠からの脱出」

チームで協力しながら答えを見つけていくもので、合意形成について学ぶことのできるゲームである。「小さな泥棒」、「雪山での遭難」、「砂漠からの脱出」など、多くのコンセンサスゲ

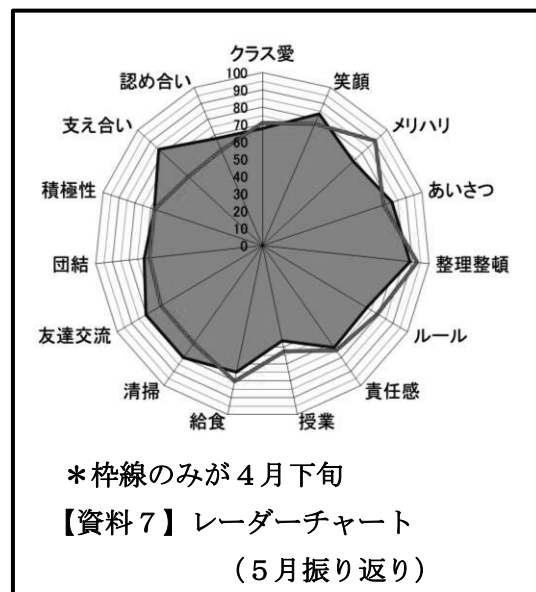


ームにとりくんだ。個人で考えた後に、個人の考えをもち寄り、グループで合意形成をはかり、優先順位などを決めた。全体での話し合いも行った。Aは、「異なる点は…」 「○と○を合わせられない？」 「合意点は…」などと、合意形成に用いるとよい言葉を用意し、級友に提示した。コンセンサスゲームは模範解答が用意されているものが多いため、授業などでも使用しやすい。解答と正解の差分が小さいグループが勝利などとゲーム性を取り入れることで、生徒たちは楽しく合意形成の手法を学ぶことができた【資料6】。Aもコンセンサスゲームを通して、周りの意見を受け入れながら、自分の考えを伝えられるようになった。

### 3 合意形成をはかった話し合い活動

#### (1) 6月の重点目標を決める

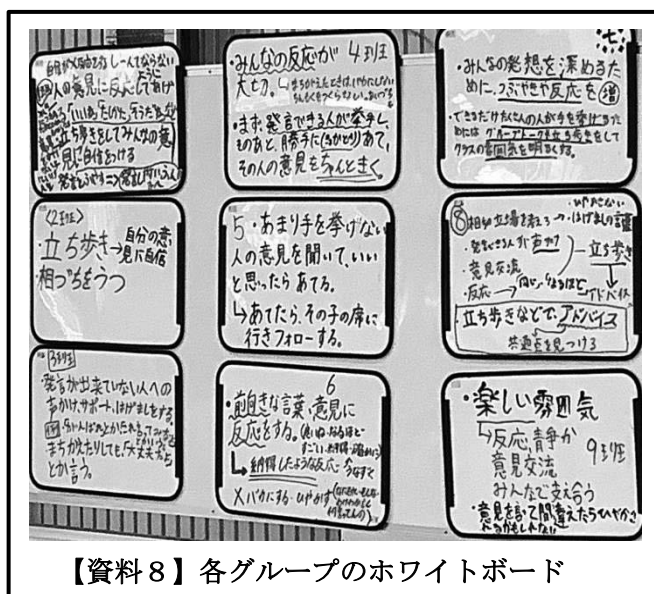
5月下旬、第2回の学級力アンケートを実施し、レーダーチャートをもとに6月の学級目標を決める話し合いを行った。生徒たちはレーダーチャートを見て、「他の係の仕事を手伝うなど、自分からクラスのために行動したからこそ、『支え合い』が高まったと思う」など、まず数値の高い項目に意識をむけることができた【資料7】。その後、課題点を中心に話し合った結果、6月の重点目標は「授業」に決まった。授業で発言する人が偏っている、一人ひとりがもっと積極的に発言していくことが大切という意見が出た。国語や道徳でも合意形成をはかった話し合い活動を取り入れたが、グループでは活発に



交流できても、全体での話し合いになると発言する生徒が限られてしまうことが少なくなかった。Aは学級の現状をみて「今よりも発言しやすい雰囲気をつくるのが大切だと思う」と発言した。そこで、『発言しやすい雰囲気をつくるための方法を考えよう』をテーマに話し合いを行うことにした。ここからは、上記テーマの話し合いの様子について述べていく。

#### (2) 段階を踏んだ合意形成、納得度を問う

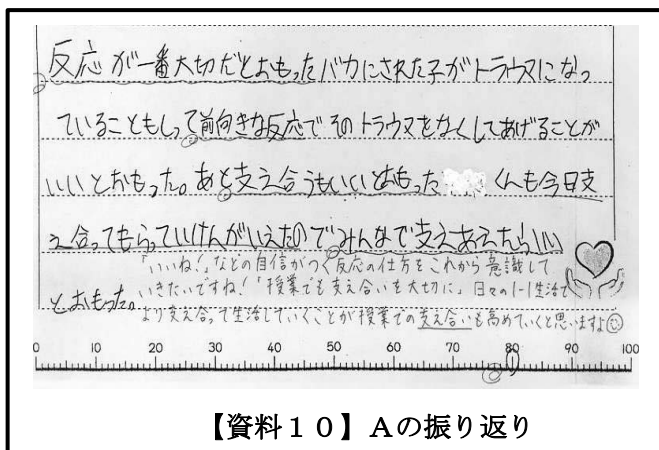
まずは個人で考え、ワークシートに記入する時間を設けた。その後、課題について思考を深められるようにするため、グループから全体へと段階をふむことにした。グループでの話し合いでは、話し合った内容を整理しやすくするため、ホワイトボードを用いた。生徒はコンセンサスゲームの経験をいかし、合意形成をはかっていった。そして、話し合いの中盤から終盤に、生徒に納得度を問うことを新たに追加した。納得度は0から100で、現段階でのグループの話し合いで、自



分がどれだけ納得できているのか、それぞれの生徒の思いを可視化するために用いた。生徒たちとの話し合いで、納得度は80%以上をめざした。納得度が低い場合は、その理由を聞き、再度話し合いの時間を設けた。グループでの話し合い後、各グループの考えがまとめられたホワイトボードを提示した【資料8】。また、生徒のタブレット端末にも写真を送った。グループでの話し合いから全体での話し合いへ移行しようとしたとき、Aから「立ち歩きがしたいです」という声が上がった。立ち歩きとは、グループから全体での話し合いへ移行する際に、課題について、他のグループの考えを把握したり、気になった点について生徒どうしで話し合ったりする時間である。各グループのホワイトボードをじっくり見る生徒、タブレット端末やワークシートを使って話し合う生徒など、さまざまであったが、「〇〇さんと同じ考えなんだ」と自分の考えに自信をもつなど、全体での話し合いで活発な意見交流、そして合意形成をはかっていくうえで、立ち歩きはよい時間であると感じた【資料9】。その後、全体での話し合いを行い、合意形成をはかった。「1、6、7、8班の考えが合意できて」「発言しやすい雰囲気をつくるための方法の一つは、『反応する』でいいと思いますが、みなさんはどう思いますか」など、Aをはじめ生徒たちで意見をつなぎ、活発に意見交流して合意形成をはかることができた。また、話し合いの終盤で生徒に納得度を聞いてみた。納得度は平均85%と高い数値であった。本時では、『反応する』など、発言しやすい雰囲気をつくるための方法を学級みんなまで考えることができた。



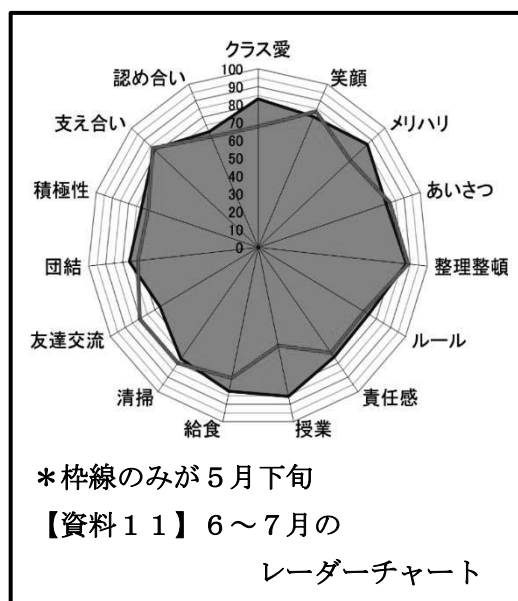
【資料9】立ち歩きの様子



【資料10】Aの振り返り

この時間で、合意形成をはかることができたのは、コンセンサスゲームへのとりくみ、グループから全体への段階を踏んだ合意形成などに加え、生徒一人ひとりが「日々の授業で発言しやすい雰囲気をつくっていききたい」と課題を自分事としてとらえていたことが、大きな要因だと考える。話し合いを経て、日々の授業では生徒の反応、つぶやきが格段に増えた。それと同時に発言する生徒も増え、授業に活気が生まれた【資料10】。

【資料11】は、6～7月を振り返ってのレーダーチャートである。5月に比べ、「授業」が高まったことはもちろん、数値が上がった項目がいく



\* 枠線のみが5月下旬

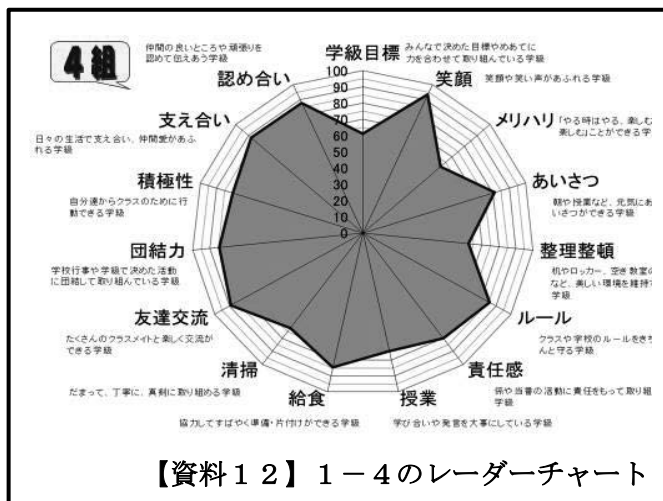
【資料11】6～7月の

レーダーチャート

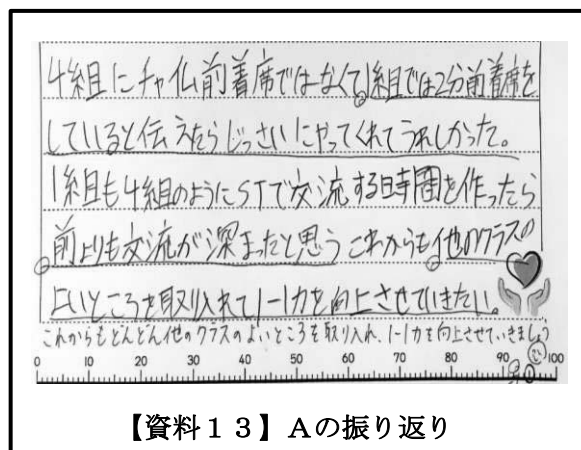
つかあった。グループや全体での話し合い活動を充実させたことで、生徒たちは話し合い活動だけではなく、以前よりも給食の準備を協力したり、チャイム前着席の声をかけ合ったりするなど、日々の生活でもクラスメイトと協働し、よりよい学級をめざそうという生徒一人ひとりの意識を高めることができた。

### (3) 学年全体でのレーダーチャートへのとりくみ

2学期に入り、Aは学級委員となり、学年の立案会長も務めることになった。立案会でのとりくみを考える中で、Aは「1年生の全クラスでレーダーチャートを行っていくのはどうか」と提案した。1組で1学期の間、レーダーチャートをもとにした話し合いを通して、学級みんなで重点項目を決め、その重点項目を意識して生活したことで、学級力が向上したことを他の学級の学級委員に伝



えると、みんなが賛同した。そこで、学年全体でレーダーチャートにとりくむことになった。学級力アンケートやレーダーチャートは、学年の実態に即したものに改良した。そして11月に入り、学年集会で各学級のレーダーチャートを提示し、優れている点や改善点を発表する場を設けた。各学級のレーダーチャートの違いに驚きながらも、生徒たちは熱心にレーダーチャートを見たり、話を聞いたりしていた。中でもAが特に



関心をもったのは、4組のレーダーチャートであった【資料12】。1組が高い数値を示している「メリハリ」や「整理整頓」が4組は低く、4組が高い数値を示している「友だち交流」や「認め合い」が1組は決して高いとはいえなかった。そこでAは自ら、4組の立案会メンバーにどうして「友だち交流」や「認め合い」が高い数値を示しているのかを聞いた。すると、朝や帰りのSTで1対1やグループで交流（トーク）する時間を設けたり、その交流する時間の中でクラスメイトや学級全体のよさをトークテーマにするなどして、認め合う機会をつくったりしていると聞いた。早速Aは1組でもSTで、グループなどで交流する時間を設けた。反対にAは、1組のメリハリや整理整頓、授業で意識している点について伝えた【資料13】。学年全体でレーダーチャートへとりくんだことで、Aをはじめ、生徒たちは学級の枠を超え、他学級とも協働し、よりよい学級、そしてよりよい学年をめざそうという意識を高めることができた。レーダーチャートの数値も「支え合い」、「授業」をはじめ、全体的に高い数値を示した【資料14】。

## V おわりに

### (1) 研究の成果

級訓「支笑愛」や「1年1組・11か条」を教員の思い中心ではなく、マッピングを用いて、生徒の思いを中心に決めたことは、自分たちで考え、改善していきたくみを構築する基盤となった。また、めざす学級像により迫り、学級力を向上させていくため、学級力アンケートとレーダーチャートを用いたこと、さらに、そのチャートに生徒の意見をとり入れ、既存のものから、学級の実態に即したものに改良したことは、課題を自分事としてとらえ、よりよい学級をめざそうという意識をもつことにつながった。Aも級友に「配りものが多いときは配り係の手伝いができるといいと思う」と呼びかけるなど、課題を自分事としてとらえるとともに、学級全体で学級力を向上させていきたいという意識をもつことができた。

また、コンセンサスゲームをとり入れたことで、生徒は楽しみながら合意形成について学ぶことができた。また、合意形成をはかった話し合い活動を取り入れたことで、生徒はこれまで以上に異なる意見に関心をよせ、相手の立場に立って共感的に理解することができるようになった。さらに、グループから全体へと段階を踏んだ合意形成をとり入れたことで、課題について思考が深められ、活発な意見交流につながり、合意形成をはかることができた。話し合い中に納得度を問うことも、生徒の思いを可視化することができ、合意形成をはかる一助となった。グループや全体での話し合い活動を充実させたことで、めざす学級目標が明確になり、話し合い活動だけでなく、日々の生活でも他者と協働し、よりよい学級をめざそうという意識を高めることができた。Aも学級力向上のリーダーとして活躍することができた。そして、学級だけでなく、学年全体でレーダーチャートにとりくんだことで、学級の枠を超え、他クラスとも協働し、よりよい学級、そしてよりよい学年をめざそうという意識を高めることにつながった。この学級力向上プロジェクトを通して、生徒は学級のことが好きになり、学級の役に立ちたいという思いをもち、その思いを行動に移すことができた。1-1の学級力は大きく向上した。

### (2) 今後の課題

学級力アンケートは定期的に行うことも大切であるが、学級の現状をみて、アンケートや話し合いを行う時期を見極めることの必要性を感じた。決められた時期に形式的に行うだけでは受動的で、主体的とはいえない。生徒自らが「自分たちでよりよい学級を築きたい！」と主体的にとりくむためには、一日ごとや一週間ごとの学級目標を決めるなど、日々の継続した支援が大切だと感じた。また、納得度はポジショニング機能を使うことで、より生徒の思考の変化がみられると感じた。タブレット端末をもっと有効に活用できる可能性を探っていききたい。グループや全体での話し合い活動については、学級活動に限らず、日々の授業で継続的にとりくんでいきたい。それに加え、ワールドカフェなど、さまざまな話し合い活動を取り入れていくことが、話し合い活動の充実につながり、合意形成をはかるうえでも効果的であると感じた。そして、今後は学級だけでなく、学年の枠を超え、学級力はもちろん、学年・学校力が向上するような実践をしていきたい。

